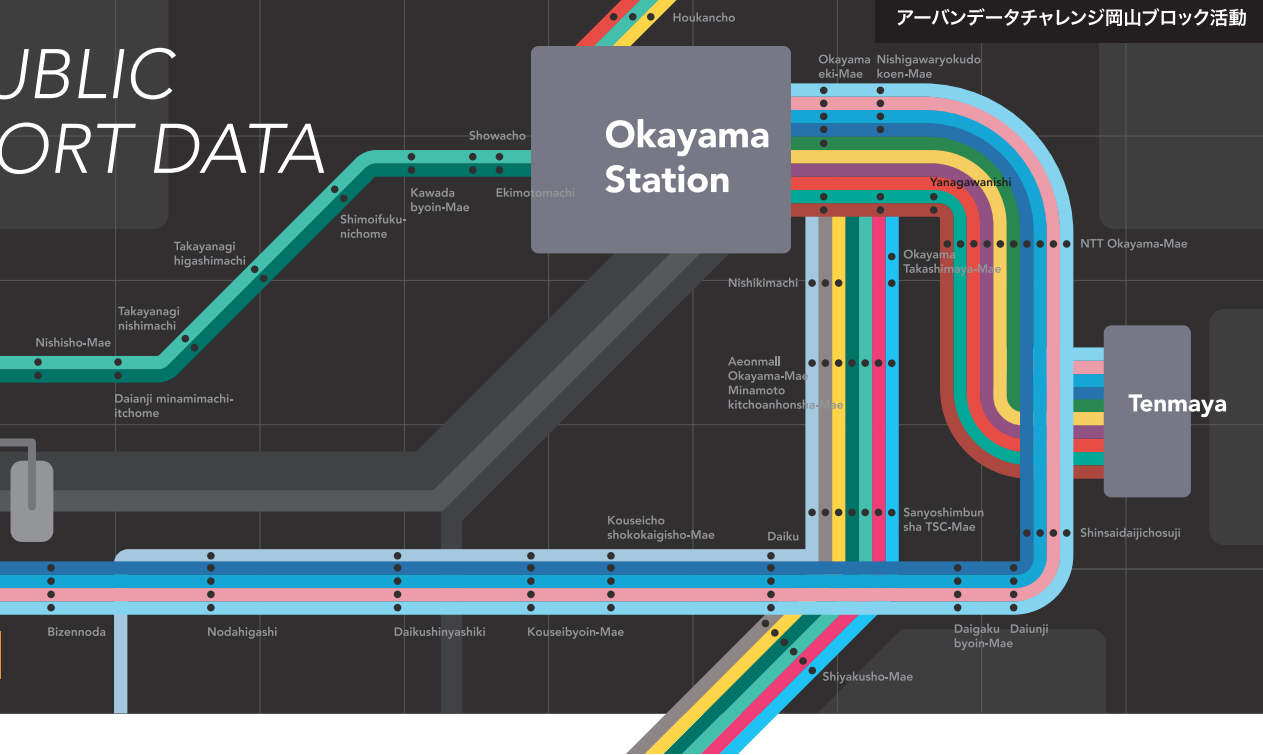
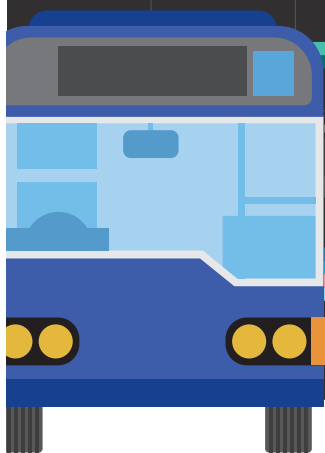


OPEN PUBLIC
TRANSPORT DATA
FORUM

公共交通オープンデータ 最先端都市フォーラム in OKAYAMA

オープンデータを活用して岡山の公共交通の魅力高めよう!!

岡山では今、自治体、交通事業者、地域コミュニティなどがそれぞれ公共交通のオープンデータ整備に熱心に取り組んでいます。岡山県によってバス路線データが、地域のバス事業者によって時刻表やバスロケのデータが整備、公開され始め、コミュニティバスのデータを整備する団体も現れています。岡山は今まさに、全国でも有数の公共交通オープンデータ先端地域となりました。このイベントでは、現在岡山で公開されている公共交通オープンデータを一堂に集め、データ整備の状況や活用可能性を事例を交えながら紹介します。そして、地域の課題を解決するためのデータ活用の可能性を広く議論します。岡山県における公共交通オープンデータの現状への理解を深めて頂くとともに、公共交通に関心を寄せる皆様がデータの更なる充実や活用のために何が出来るか、考えるきっかけとなることを願っています。

こんな方におすすめです!

交通/街づくりに関心のある方

情報提供、バスマップ、交通改善についてオープンデータを使って考えてみませんか?

IT/データのエンジニア

岡山には全国トップクラスのデータがあります。役立つツール開発・データ分析に挑戦してみませんか?

交通事業者・自治体関係者

オープンデータをどう作り、役立てればよいか? 全国や岡山の最新状況を勉強しながら、市民や技術者と考えてみましょう。

2018年7月14日(土)

会場: 岡山県立図書館多目的ホール

時間: 13:30-16:45 (開場 13:00)

定員: 80名

参加無料

お申し込み: <http://d-cradle.or.jp/forum2018>

お申し込み締切: 7月13日(金) ※応募多数の場合は先着順となります

お問い合わせ先:

実行委員会事務局(一般社団法人データクレイドル)

倉敷市阿知1-7-2くらしきシティプラザ西ビル706

URL: <http://d-cradle.or.jp>

Tel: 086-427-0885

Mail: office@d-cradle.or.jp



PROGRAM

- 13:30-13:40 挨拶・趣旨説明
- 13:40-14:00 **基礎講演** オープンデータが変える公共交通
伊藤 昌毅 東京大学 生産技術研究所 助教/地域公共交通総合研究所 研究員
- 14:00-14:15 話題提供1 岡山県の公共交通データ (岡山県庁 担当者)
- 14:15-14:30 話題提供2 コミュニティバスデータを作ってみた (岡山大学 学生)
- 14:30-14:50 **公共交通オープンデータ活用事例と発展への期待**
太田 恒平 株式会社トラフィックブレイン 代表取締役社長/地域公共交通総合研究所 研究員
- 14:50-15:00 アイデアソン企画説明 休憩・移動
- 15:10-16:10 **アイデアソン**
公共交通オープンデータをどのように整備、活用するか、地域や興味に応じたグループに分かれてディスカッションします。
- 16:10-16:35 **各チーム成果発表**
- 16:35-16:45 講評・閉会挨拶

●主催: 公共交通オープンデータ最先端都市フォーラム in 岡山実行委員会(一般社団法人データクレイドル、code for KURASHIKI、一般財団法人地域公共交通総合研究所、東京大学 瀬崎研究室、アーバンデータチャレンジ2018実行委員会) ●後援: 岡山県、倉敷市、津山市

Event Schedule



公共交通オープンデータは、IT、公共交通、まちづくりなどに関心のある皆様が活用することで、アプリや電子看板、チラシやポスターなどによる分かりやすいバスや鉄道の案内が実現します。その先には、公共交通によって地域の魅力を高め、暮らしを豊かにする未来もあるでしょう。この未来を実現するために、公共交通オープンデータ関連イベントを引き続き計画しています。

2018年7月14日(土) 申込み締切: 7月13日(金)

公共交通オープンデータ 最先端都市フォーラム in 岡山

2018年9月(予定)

公共交通オープンデータワークショップ

～GTFSデータに触れよう・作ろう・アプリを作ろう～

対象者: 公共交通オープンデータに関心を持つエンジニア、学生等

内容: 「GTFS・標準的なバス情報フォーマットを作ってみる」

ファシリテーター: 伊藤 昌毅(東京大学 生産技術研究所 助教)

ワークショップ:

「公共交通オープンデータに触れよう・作ろう・アプリを作ろう」

2018年12月(予定)

公共交通オープンデータハッカソン

対象者: 公共交通オープンデータに関心を持つエンジニア、学生等

内容: 公共交通オープンデータを活用したコンテンツやアプリの開発

ファシリテーター: 伊藤 昌毅(東京大学 生産技術研究所 助教)

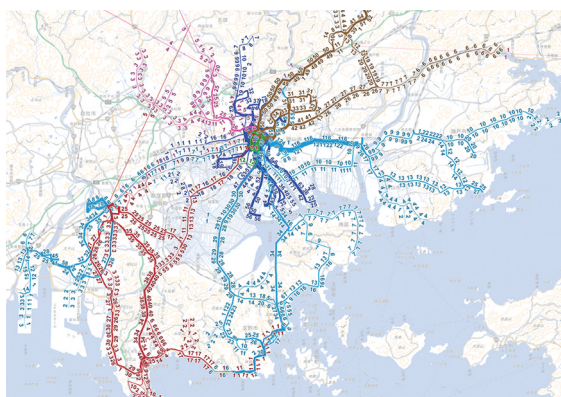
関 治之 (code for Japan 代表理事)



伊藤 昌毅 Masaki Ito

(東京大学 生産技術研究所 助教、一般社団法人 地域公共交通総合研究所 研究員)

「IT×公共交通」をテーマに掲げ、全国の地域コミュニティやバス事業者などを駆け回りながら公共交通オープンデータの推進などに取り組んでいる実践型研究者。2010年からは在籍した鳥取大学で地域公共交通とITの融合に目覚め、2013年から現職。国土交通省 バス情報の効率的な収集・共有に向けた検討会 座長、公共交通分野におけるオープンデータ推進に関する検討会委員などを担当。



岡山県における 公共交通オープンデータ整備状況

2018年3月に、岡山県によって県内全域の路線バスの停留所や路線などのデータが公開されました。民間事業者でも、2017年に宇野自動車時刻表データ、さらにバスロケーションシステムと呼ばれるバスの車両位置データを公開しました。同様のデータ公開を両備グループが準備しているほか、データクレイドルも倉敷市とともにコミュニティバスのデータ整備に乗り出すなど、県内で取り組みが続いています。これらの時刻表データは、世界的標準 GTFS フォーマットを国土交通省が拡張した「標準的なバス情報フォーマット」に基づいて整備されています。この形式のデータは、Google Mapsをはじめ乗り換え案内サービス各社にも提供することが出来ます。